

理学療法士による発達支援が必要な子供への介入モデルの検討

Investigation of a model of intervention for physical therapists with children who need developmental support.

○辻いづみ^{1,2} 中鹿直樹¹

○Izumi Tsuji Naoki Nakashika

立命館大学人間科学研究科¹ 大阪医療福祉専門学校²

Graduate School of Human Science Ritsumeikan University, Osaka Collage of Medical Welfare

Key words: 理学療法士, 発達支援, 行動分析

序論

近年、理学療法士は特別支援教育分野への介入支援を進めているが、深部感覚や前庭感覚の情報処理を行う中枢神経の発達の未熟を原因とする、医学的な治療アプローチがほとんどである。実際は子供に対して治療として医学的に正しいことを行おうとしてもうまく動いてもらえないことが多い。行動の問題に対しては、子供の能力や動機づけに原因を求めるのではなく、環境の中に原因を求めて改善していく行動分析学が顕著な業績を上げてきた。行動分析学を理学療法士が理解しその理論に基づく支援・指導を実践していくことで、より子供の運動発達支援に貢献できると考える。しかし理学療法士の養成課程の中に行動分析学を学ぶ機会はいまもなく、具体的にどのように子供の支援を行うかのよりどころが無い。

理学療法士が対象者に介入する場合、情報収集、動作観察・分析、統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、理学療法プログラム立案・実施、再評価というプロセスがある。これに加えて「どのようにして適切な行動に導くか」という問題に対して、行動分析学をもとにした対人援助学(望月, 2007)を基盤とし行われている学生ジョブコーチの実践方法が、特別支援教育分野で理学療法士がぶつかる行動の問題の具体的な対応方法を示している。よってこれらを基に理学療法士が子供に行う発達支援の介入モデルを提示することを目的とする。

介入モデル

- 1) 子供・保護者から、病院・放課後等デイサービスなどの施設を介して、理学療法士が支援要請を受ける。
- 2) 理学療法士と支援要請者との間で支援要請内容・情報の共有を行う。医学的な情報収集、動作観察、可能な範囲の理学療法検査測定を行う。
- 3) 理学療法的な統合と解釈、問題点の抽出を行う。これにより医学的な問題点の抽出が可能となる。
- 4) 支援要請内容を十分に検討し、目標の設定=標的行動の決定を行う。
- 5) 課題分析表を作成する。一連の複雑に見える標的行動を複数の行動リンクに分解し行動連鎖の表を作る(中鹿, 2010)。

6) 一つ一つの課題(ステップ)に対して、指示の出し方の手順を①言葉②身振り③見本の提示④手添えでの指示の4段階を基本として設定する。課題分析の第1ステップを1つ目の指示①の後、子供が自分から始めるのを3~5秒待つ。もし対象者がそのステップを間違いなくできたら強化し課題分析の第2ステップに進む。できなかつたら2つ目の指示②を提示し3~5秒待つ。できたら次のステップへ、できなければ③、④と進む(小川, 1993)。

7) 強化を与える頻度や量、種類を設定する。望ましい行動があったらすぐその場で与えなければならない。

8) 課題分析表に沿って、遂行の有無、指示の段階、強化への反応などを適宜記録する。

9) 問題が起こった時「することができない問題」は①教材の欠如②理解していない③時間の欠如④前提となるスキルの不足を、「しようとならない問題」は①課題に多大な努力を必要とする②強化の頻度が低すぎる③強化の質が低い、を検討し解決方法を模索・実施する(武藤, 2007)。

10) 記録を確認しながら支援方法・課題の調整を行い、標的行動がどのような援助下で実施されるのかをまとめる。理学療法士が直接支援できない場面でも標的行動が実施されるよう、他の支援者にも支援方法を共有する。上記の流れを基に個別に修正を加えつつ介入を行う。

引用文献

- 小川浩. (1993). ジョブコーチの援助技術 システムティック・インストラクション. 職業リハビリテーション, 6, 74-77.
- 中鹿直樹, 望月昭. (2010). 課題分析を使った指導の記録を就労支援に活用する. 立命館人間科学研究, 20, 53-64.
- 武藤崇. (2007). 特別支援教育から普通教育へ: 行動分析学による寄与の拡大を目指して. 行動分析学研究, 21(1), 7-23.
- 望月昭. (2007). 学生ジョブコーチという試み—学生による障害者(生徒)の就労実習支援システム. 立命館文学, 599, 134-140.